

				項目	自己評価	
II	保育のあり方 児童への対応	1	健康と安全への配慮	①	入所時に児童の視診を行い、体調が悪くないか確かめている。	4.5
				②	体調が悪い児童には、適切な配慮を行っている。	4.2
				③	ケガや事故にはとくに気をつけ、年齢に応じた環境構成を心がけている。	3.8
				④	施設内に危険な箇所がないか、確認している。	4.2
				⑤	危険が予測される場合、児童と一緒に確認したり考えたりして安全な使い方や遊び方に、気づくことができるようにしている。	4.3
				⑥	事故やケガが発生した場合には速やかに責任者に報告し、保護者に連絡をとり、医師診察などの適切な処置を行っている。	4.0
				⑦	施設内の清掃・換気・室温など、気をつけている。	4.4
				⑧	トイレの清掃や使い方について配慮し、児童にも正しい使い方を示している。	3.6
		2	児童の観察と理解	①	一人ひとりの児童を良く観察するように心がけている。	3.8
				②	児童の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるようにしている。	3.6
				③	一人の児童をじっくりと見ながら、周囲にも目を配ることができる。	3.2
				④	児童同士のかかわりの姿を捉えることができる。	3.2
				⑤	児童を自分の一方的な感じ方や考え方で、決め付けないようにしている。	3.4
				⑥	児童の姿を家庭での生活、生育歴などをふまえて、理解しようとしている。	3.8
				⑦	児童の姿を多面的に捉えることができる。	3.5
		3	指導と かかわり	①	児童に合わせて同じように動いてみたり、同じ目線に立ってものを見つめたりしている。	3.6
				②	児童の気持ちに共感しながら、一緒に遊んでいる。	3.6
				③	一人ひとりの児童の思いを把握して、寄り添いながらかかわっている。	3.8
				④	児童からのアイデアをくみ取って、遊びを深めている。	3.6
				⑤	教師らしい品位ある言葉、正しい日本語の用法を心がけている。	3.6
				⑥	児童の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度・体罰等をしないようにしている。	4.2
				⑦	児童一人ひとりの、ありのままの姿を受け入れようとしている。	3.8
				⑧	児童とのスキンシップを取るようにしている。	3.8
				⑨	児童一人ひとりの良さを認めるようにしている。	3.4
				⑩	児童が遊びを深めていくためのヒントやアイデアを提供している。	3.8
				⑪	児童の年齢に応じたわかりやすく聞き取りやすい語り方をしている。	3.4
				⑫	児童の自信を失わせる言葉や態度を控えている。	3.8
				⑬	児童が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をしている。	3.6
				⑭	児童同士のトラブルに対し、適切な対応をしている。	3.2